

ピースウィンズ・ショップから

夏限定！ひまわりラベルのピースコーヒーができました

本格的に猛暑がやってきて、毎日溶けてしまう様な暑さですね。

そんな夏を盛り上げる、元気なひまわりがまぶしい「季節限定サマーラベル」のピースコーヒーはいかがでしょうか。PWJでは季節に応じたラベルのコーヒーを季節限定で販売しています。

ご自宅用はもちろん各種贈答にも対応していますので、この機会にぜひご利用ください。

残暑を涼しく乗り切る有機水出しコーヒーや、アイスに最適な深煎り豆も好評発売中です。皆様からのご注文をスタッフ一同お待ちしております。



お知らせ

ミャンマーで給水支援を開始します

長年の軍事政権による支配の後、2011年の総選挙を経て民主化の道を歩み始めたミャンマー（ビルマ）連邦共和国。130以上あると言われる少数民族の中には中央政府と対峙してきたグループも多くあります。

戦火は治まったものの、紛争のため社会開発が遅れていたタイ国境に近い地域では飲み水も十分でないような村が多くあります。PWJは2013年5月にスタッフを派遣し、ミャンマー南東部カレン州の村で現地調査を行いました。そこでは、乾期の終わりになると井戸水が足りなくなり、井戸の底にたまる泥で水が濁ってしまいます。

濁っていたとしても飲用として使うため、季節によっては小さい子どもたちが下痢になるなど、健康面でも問題が発生するそうです。

PWJは、給水施設の補修や新設を行う計画を進めています。



オリジナルコーヒーを作ってみませんか

PWJでは、皆さまがデザインしたオリジナルの写真やイラストを使って小ロットからオリジナルコーヒーを作ることができます。

結婚式の引き出物に、お二人の写真のコーヒーを。内祝いにお子様の写真と名前が入ったコーヒーを。新商品発表や、設立の記念品にロゴの入ったコーヒーを。日ごろのご愛顧に感謝する得意様へのコーヒーギフトに。レストランやカフェのレジ横でオリジナルコーヒー販売を。

まだまだ出てくる活用シーン、オリジナルラベルの可能性は無限大ですね！

大きなロットもぜひご相談ください。

ご注文は、<http://pwshop.ocnk.net>

同封のご注文用紙をFAXまたはTEL:03-5213-4073まで。

※ピースウィンズ・ショップの収益はPWJの支援活動に活用されます。

村の子どもたちの笑顔



村で調査を行うPWJ職員

支援のプロを、
世界の現場へ



今日は、東ティモール駐在・永井亮宇が現場からのレポートをお届けします！

栽培環境の改善・維持に実現に向けて

カットバックの実施

コーヒーの木は老齢化するとコーヒーの味が落ち、収穫量も減ってしまうため、その対策は必要不可欠です。レテフォホでも多くの樹齢が20~30年となり、老齢化が深刻になってきました。

よく行なわれる古木対策の方法は、古木の幹の部分を切り落とす「カットバック」というもので、その部分から生える新芽を成長させて再生を図る方法です。しかし、いったん木を切ってしまうことで、数年は一時的に収穫が減ってしまうため、これまでに何度か対策の重要性を生産者に説明してきましたが、なかなか理解が得られず作業が進みませんでした。「木を切つてしまったら、もう実が付かないのではないか」と心配する声も聞かれました。

こうした生産者の不安を解消するため、今年は2年前に試験的にカットバックした木の結実を確認してもらい、作業方法についての講習を実施し、作業をサポートする専属スタッフを雇って、対策の本格実施に向けて準備を進めています。

東ティモール全体を見ても、古木対策を行なっている地域はほとんどなく、今回の対策をモデルケースとして他の地域にも普及していきたいと考えています。

コーヒーの麻袋を運ぶスタッフ



レテフォホのサポートスタッフたち

東ティモール人スタッフが見た海外のコーヒー市場

東ティモールには海外のコーヒー市場を知る人はほとんどいません。他の産地のコーヒーはどんな味なのか、海外ではどんなコーヒーが流行っているのかPWJスタッフにも感じてもらうために、PWJの東ティモール人スタッフ・アディーノ（生産管理担当）と一緒に、オーストラリアのメルボルンで開催されたコーヒーフェスタに参加してきました。

フェスタでは数名のバイヤーと取引状況などについて話しました。昨年まで東ティモールのコーヒーを買い付けていたものの、品質が安定せず、取引をやめたという声もありました。東ティモールでは、品質に対する意識がいまだに低い業者や生産者が多く、素材（品種）は良くても、その後の加工で品質を落としてしまっているという現実を改めて感じる瞬間でした。

一方、フェアトレードやオーガニック認証についての理解が高い人が多く、高品質なものは、それに見合った価格で買うのが当たり前という意見を聞き、これまで品質向上に注力して事業を続けてきたことに自信を持つことができました。

アディーノも「世界中の生産者もとてもがんばっている。インドネシアのコーヒーもびっくりするほどおいしくて驚いた。レテフォホも負けていられない！」と意気込んで帰国の途に就きました。

コーヒーフェスタに参加中のPWJ永井(中央)とPWJアディーノ(左端)



東ティモールのコーヒー生産業も、アディーノのような気概を持った人材と、品質を管理する技術が確保できれば、未来は明るいと実感したフェスタでした。

東ティモールの人々に美味しい国産コーヒーを

2012年4月に東ティモールへ赴任してから一年がたち、おいしいコーヒーを日本に届けるため様々な業務に携わってきましたが、どのレストランやスーパーに行ってもおいしい国産コーヒーがなく、東ティモールの人びとが疑問も持たずにインドネシア産のコーヒーを飲んでいたのが気になっていました。

そこで「コーヒー生産国である東ティモールの人びとに、おいしい国産コーヒーを飲んでもらいたい」と、ピースコーヒーを国内で販売する挑戦が始まりました。

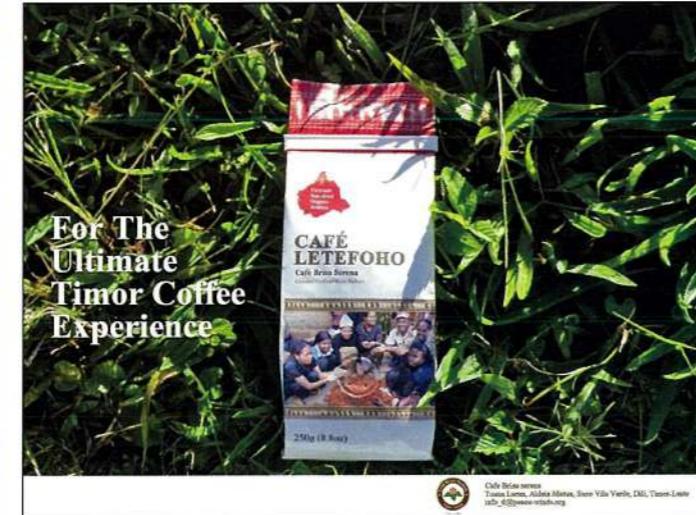
ピースコーヒーの東ティモールでの販売名は「Café Letefoho」。東ティモール人が知っている地名である「レテフォホ」という語を商品名に入れることで、国産であることを意識してほしいという願いを込めました。デザインにも力を入れたピースコーヒー改めカフェレテフォホは販売開始するやいなや完売続出で、これまでおいしい自国産コーヒーを飲んだことがなかった多くの人びとから「レテフォホで採れるコーヒーはこんなにおいしいのか！」と驚きの声が。どうやら「おいしい東ティモールコーヒーを飲みたい」と思っていたのは私だけではなかったようです。カフェレテフォホという名前のピースコーヒーはまたたく間に有名になりました。

さらに、JICA（独立行政法人国際協力機構）が、東ティモール農水省と協同し、首都のディリ国際空港で立ち上げた「一村一品ショップ」でも、カフェレテフォホを取り扱ってもらえることになり、ピースウィンズの「カフェレテフォホ」は、東ティモールから出かける人、帰国する人のお土産として、今日も空港に並んでいます。

東ティモールコーヒーの国内販売を始めたことで何よりもうれしいのは、多くの東ティモールの人びとに自分の国で生まれたコーヒーに大きな誇りを持ってもらえるようになったことです。

今後もPWJ東ティモールチームの挑戦はまだまだ続きます。

「Café Letefoho」の新ラベル



これまでの東ティモール事業 ハイライト

2003年

コーヒー生産地域における自律的な農村経済実現に向けて、エルメラ県レテフォホにて事業を開始。コーヒーの収穫後のプロセッシング（果肉除去、乾燥など）の研修を行う。初年度の参加メンバーは10世帯、生産量は2トン。コーヒー組合設立。

2005年

自給用作物の多様化に向けた技術指導を実施。コーヒー生産者数は135世帯、生産量は12.5トンに。

2007年

組合運営のための人材育成・運営に対する理解促進に向け、定期的に組合員による総会を実施。品質管理体制をさらに組合リーダー中心の体制にシフトするために、精製プロセスの簡素化・改良に向けた取り組み。

オロバナ集落にて小学校の増築。女性たちに「算数教室」を開催。

2008年

インドネシアにて組合代表3名とPWJスタッフ3名の合計6名を派遣し、組合マネジメントの基礎研修を実施。ドゥクライ村の3つの集落に貯水タンクを設置。

2009年

生産者世帯は254世帯、生産量は54トンに。ドゥクライ村のレブドゥ小学校の建設。

2012年

生産者数520世帯、生産量は180トンに。栽培から日本への輸入における品質コントロール対策実施。

2013年

東ティモール国内のスーパー、ホテル、カフェなどに販売開始。



コーヒー プロセッシングの過程 (2003年)



自給用の作物の多様化 (2005年)



建設された小学校 (2009年)

ソポーター制度の新設のお知らせ

このたび、ふたつのソポーター制度を新設いたしました。

●コーヒー ソポーター 月500円から

コーヒー生産者の自立化と、東ティモールに住む人びとの生活を改善するため、東ティモールの活動を応援してください。



<http://peace-winds.org/coffee-supporter>

●ワンだふるソポーター 月1,000円から

広島県神石高原町で取り組んでいる災害救助犬などレスキューチームの育成、また犬の殺処分ゼロを目指した保護犬譲渡活動を応援してください。ポストカードや報告書をお届けします。



<http://peace-wanko.jp/donation>

PWJの活動にご協力ください

※認定NPO法人のPWJに対するご寄付は、寄付金控除の対象となります。

【郵便振替】

口座番号：00160-3-179641

加入者名：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

※特定の地域・活動へのご支援の場合は、通信欄に国名等（東日本大震災の場合はその旨）を明記してください。

【銀行口座】

●PWJの活動全般へのご寄付

銀行名：三井住友銀行 青山支店

口座番号：普通 1671932

口座名義：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン広報口

●PWJの東日本震災支援へのご寄付

銀行名：三井住友銀行 桜新町支店

口座番号：普通 6723184

口座名義：特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン

※領収書が必要な場合はご連絡ください。ご連絡をいただかない場合、銀行振込ではご住所が分かりかねますので、領収書を発行できません。

メディア掲載報告



- ・5/24 オリンピック・パラリンピック招致委員会サイト「著名人が語るオリンピック・パラリンピック」に代表理事 大西のインタビューが掲載
- ・6/3 日経ビジネスオンラインにて「道の駅が限界集落と被災地にできること」記事内で代表理事 大西の活動が紹介
- ・7/3 河北新報、7/21 三陸新報にPWJ東北支援事業「Re:us World (リアスワールド)」に関する記事が掲載